

教育方法学Ka

教育学科 3回生

得能香織

目次

1章： チーム学習で構想した学校

- (1) 経営方針
- (2) 学級編成
- (3) 教職員組織
- (4) 教育課程
- (5) その他の特色

2章： 多様な能力を持った学習者一人ひとりの能力を高める ための具体的な学習指導法

～読書活動を通して、「読む・書く」力をつけるために～

- (1) なぜ、今「読む・書く」力なのか
- (2) 読書活動について
- (3) 具体的方法
 - ・チャレンジタイムの設置
 - ・図書館について

3章： 学習者の学習成果をどのように評価するか

- (1) 評価の種類
- (2) 分析

4章： この講義の感想と希望

- 自己評価票と公開同意書

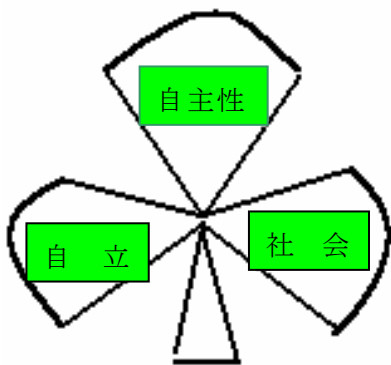
1章 チームで構想した学校

学校名 **私立みつば学園 (小学校)**

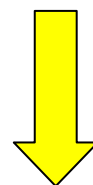
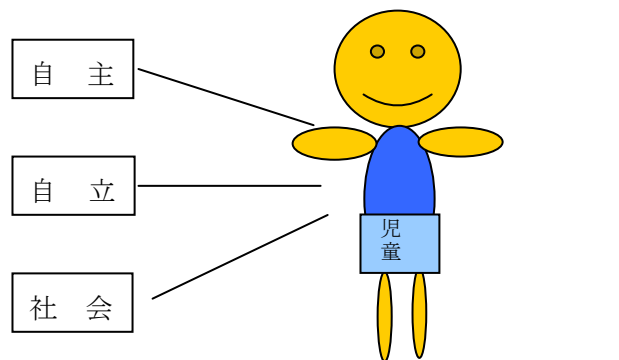
(1) 経営方針

学校経営方針

自主性・自立性・社会性を育てることを目標とし、情報教育と英語教育に力を入れ
地域・社会・世界に開かれた学校経営を目指す。



学園の名前の「みつば」の葉の
一枚一枚にひとつずつ、目標がある。



身につけるための目標

教育目標

- ・体験的な活動を重視し、自ら進んで主体的に活動に参加する子供の育成。
- ・人と人とのコミュニケーションやふれあいを大切にし、対人・異文化の相互理解を目指す。

(2) 学級編成

少人数クラスの実現

- ・ 1 学年 3 学級 = 1 ～ 6 年 計 1 8 学級
- ・ 1 学級 2 5 ～ 3 0 人で担任を一人ずつ置く。

中学教育に上がる準備として、また授業についていけない子供達にきめ細かい授業をする為、国語と算数においては高学年（5・6年）のみ、クラスを2グループに再編成する。

結果

学力が底上げされると考える。

具体的な取り組みの例

◎少人数授業 愛知県犬山市立 東小学校

犬山市では、少人数授業を導入するに当たって、習熟度別指導はしないことを原則にしている。これは「考え方や習熟度が違う子どもが交流するなかで、豊かな学習が生まれる。習熟度別指導だけでは、学び合い、支え合う態度が十分に育成されない」（水谷先生）という理由からだ。同校の少人数授業でより重要なのは、「グループ学習におけるグループをどう編成するかです」と現職教育主任の三品元子先生は話す。子ども同士が助け合って学習を進められるように、習熟度や性格などを考慮して、4人程度のグループを編成していくが、この際の基本方針を三品先生は「グループ内異質、グループ間等質」と説明する。

グループの編成は、担当教員と同様に、単元ごとに組み替える。グループ学習は、「一斉授業で発言しない子どもも、4人程度のグループなら自分の考えを言うようになり、授業に参加している実感を持てる」（三品先生）という効果も大きいようだ。

(3) 教職員組織

校長、教頭、教諭、養護教諭、事務職員、警備員。この他の教職員は、教育の補助要員として、①TA（ティーチング・アシスタント）と②LSA（ラーニング・サポート・アシスタント）を置き、教師が授業に専念できる様に、③LM（ラーニング・メンター）（いわゆるスクールカウンセラーの様なもの）を担当する教師を別に各学年1名ずつ任命する。

①TA（ティーチング・アシスタント）

理解の遅い子供達を主に見る為に、主に低学年の授業に配置する。
TAの一部に親のボランティアを含める。

②LSA（ラーニング・サポート・アシスタント）

我が校では知的障害も受け入れるため、そのケアをLSAが担当する。
ここでも子供達の親を積極的に参加させている。

結果

健全な子供達も障害を持つ子供達も一緒に学ばせることで、お互いを自然に受け入れることができると思う。

③LM（ラーニング・メンター）

ラーニング・メンターとは、毎朝校門に立ち、遅刻した子供達を見る。朝から下校までの子どもたちの様子を観察して、背後にある家庭の問題を発見したり、仲間に入れない子やすぐにけんかをする子どもたちなど、問題を抱えた子どもを見つけ、付き添って問題解決に当たったりするスクールカウンセラーのような役割をする人である。スクールカウンセラーと違うところは、常に学校にいて自由に校内や教室を行き来でき、保健室とは別にラーニング・メンター用の部屋を用意するということにある。

結果

より子どもたちをちゃんと見ることができ、いつも側にいるということから子ども

たちからも近づきやすい存在となる。

(4) 教育課程

◎時間割の工夫

子供たちにとって楽しい学校にする工夫のひとつ。

- ・国語と算数は毎日1時間以上必須にし、集中力の高い午前中に集める。
- ・午後は図工や体育など興味を持ちやすい科目を配置する。

◎授業の特色

①情報教育と②英語教育に力を入れる



地域、社会、世界に開かれた学校

① 情報教育

「情報教育」＝「コンピュータを使う」、「コンピュータの使い方を学ぶ」と考えてしまいがちですが、それは違うと考える。国際化が叫ばれている昨今、国際交流や異文化理解を促す手段として重要な役割を担っている情報通信技術を駆使し、たくさんのおもった情報の中から課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる情報収集伝達能力や、自己教育力など、自らの問題解決のために情報を活用することと、そのために情報手段を適切に活用できる力を育成することを目標としている。ただコンピュータを使うというだけでなく、このような能力の育成に目を配らせ、情報教育の背景にある国際化を念頭に置き、授業を進めるという方針である。

《児童の活動内容》

- ・パソコンの利用（技能の習得）
- ・E-mail機能やインターネットを使い、他学校と交流をする。

- ・我が校のホームページを作り、更新をする。

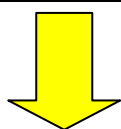
② 英語教育

国際性豊かな感性と広い視野を持った国際人の育成を目指し、国際共通語である英語に重点を置くことで、国際社会での活躍や異文化理解に働きかける。また、生の英語に触れられるように外国人教師を導入し、「聞く」「話す」など会話を中心とした生きた英語を学び、国際コミュニケーション能力の育成を図る。また、すぐに会話などを学ぶのではなく、歌や遊びなどを通して英語に触れ、苦手意識を植え付けないような配慮をする。そして、外国に姉妹校などを設ける。姉妹校の同年代の学生とインターネットや E-mail 機能を使い、そこの国際交流を図ることが異文化理解にもつながると考える。

《児童の活動内容》

- ・外国人教師の導入による歌や遊び
- ・海外の姉妹校と、インターネット・テレビ電話による国際交流。

異文化理解



- ・ 自国の文化の知識
 - ・ 国語力
- } も必要

②-1 国語力の涵養

日本文化や国語の学習にも力を入れる。たとえば読書活動として「朝の読書」を行い、教室にも英語の本や日本語の本を置き、読書ができるソファやラグを置いてリラックスできるスペースを設けるなどして学習環境を整える。

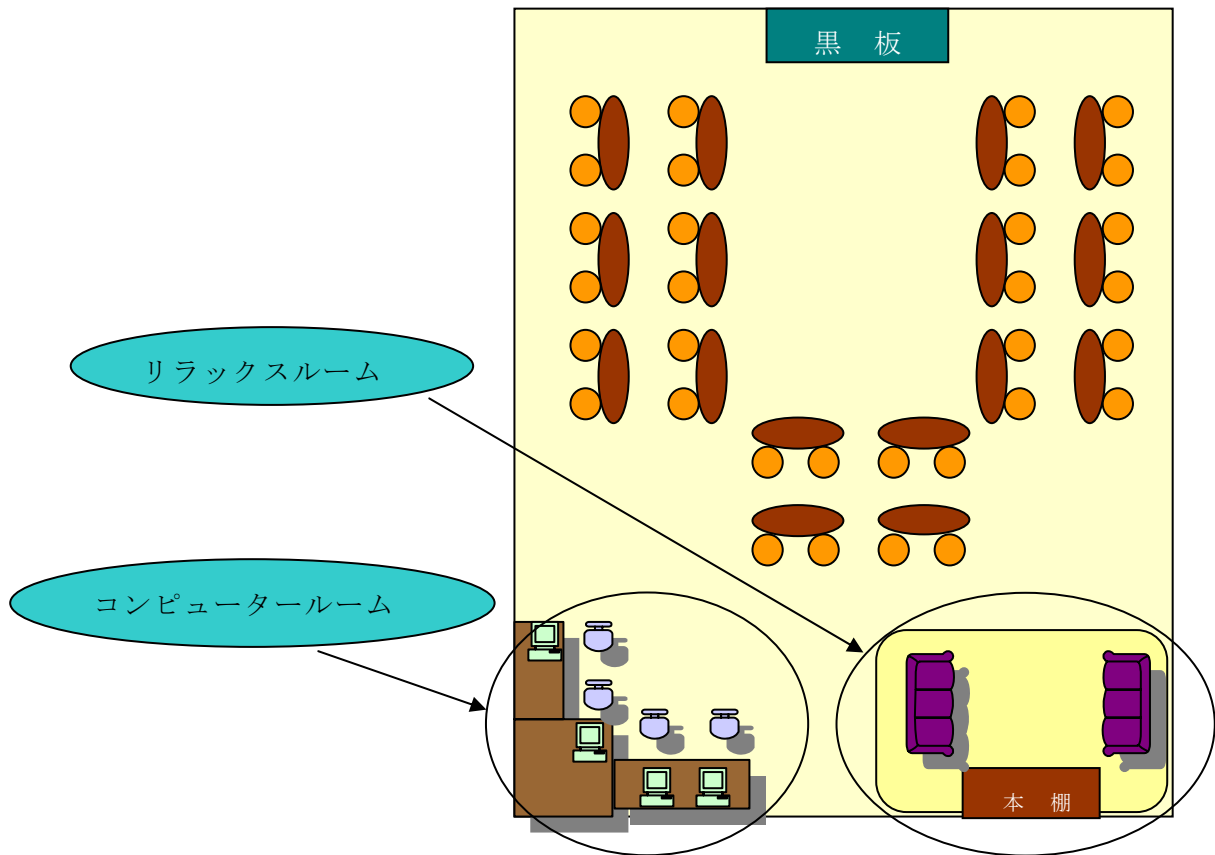
(5) その他の特色

◎教室のレイアウト

- ・活動にあわせて机と椅子が動かせるようにする
- ・お互いにコミュニケーションをはかれるように、少しカーブのあるコの字型にする
- ・リラックスルーム・・・ソファとラグ、本棚を置き、本棚には、英語の本も入っ

ており、自由にそれらを取って読むことができる。

- ・ コンピュータールーム・・・パソコンが自由に使える



◎親の教育への参加

《生活の基本を守る》

- ・ 必ず学校に行かせる
- ・ 夜は早く寝かせる
- ・ 親が宿題を見ること
- ・ 親たちがボランティア（T A ・ L S A ・ 司書教諭）として、学校教育現場への直接の参加

結果

親達は、以前より教育の当事者が親であることを自覚するようになり、また子供たちの成績が順次向上するに連れて、親達は教師への信頼を深めると考えた。

まとめ

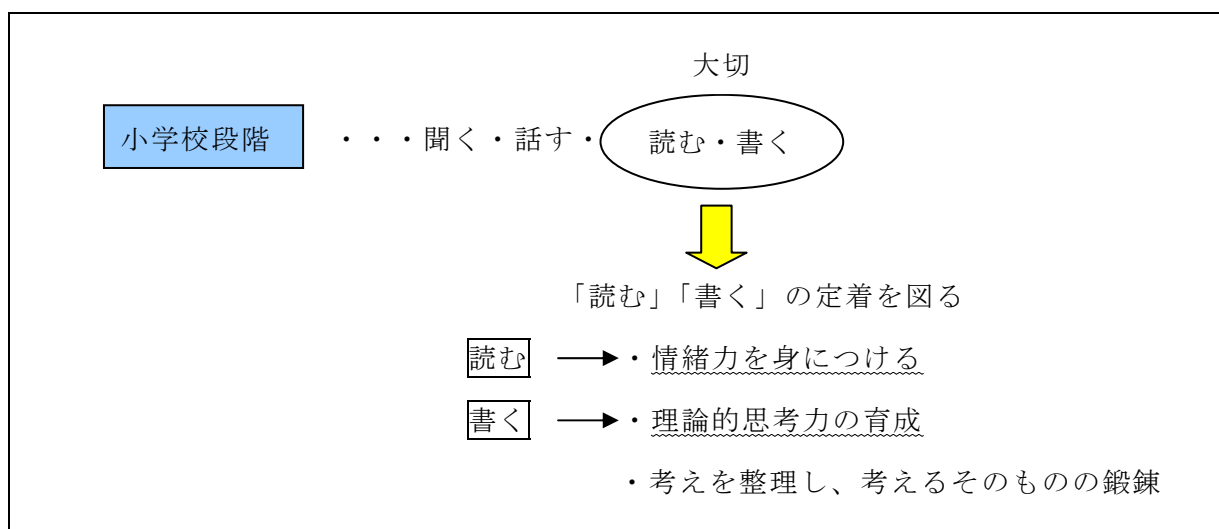
多くの特色を挙げてきたが、これらは私立だからこそ可能なのである。児童の主体性が育たない、詰め込み教育ではという意見を頂いたがそうとは思わない。なぜ学校に行くのか、学校は遊びに行く所ではないという事を考えれば必然的に理解できるだろう。

2章： 多様な学力を持った学習者一人ひとりの学力を高めるために

～小学校国語の「読む・書く」力をつけるためのSHRの活用方法の提案～

(1) なぜ、今「読む・書く」力なのか

先日の、経済協力開発機構（OECD）の40カ国・地域の15歳を対象にした「生徒の学習到達度調査」（PIISA）で、日本の高校1年生は読解力の点数が前回からの低下幅が最も大きかった。加えて、『学力低下』の実態」（岩波ブックレット 荻谷剛彦ほか）においても、国語力の低下がみられると述べてある。私たちの学校は、英語教育に力を入れており、これと平行させて国語力の涵養をはかることとした。以下に、身に付けたい国語力の具体的内容を定義する。



(2) 読書活動について

「読書離れ」が盛んに言われる現在の状況と、読書の重要性を考えた場合、読書活動は、一教科の中だけで取り組むものではなく、すべての教科にわたって全校を挙げて取り組むものとして明確に位置付けられるべきである。その意味では、学習指導要領などとの関係についても再検討することが必要ではないかと考えられる。（p10に学習指導要領記載）

さらに、読書する力の内実と目指すところを明らかにしていくことを考えていく必要があるだろう。その際に、国語科で取り組む読書活動と、他教科で取り組む読書活動との関

係についても十分考慮されることが望まれる。

小学校入学前に読書への関心が十分に培われていない児童が存在することも考えると、読書習慣を身に付けさせるためには、小学校段階からの継続した読書指導が大切である。

小学校学習指導要領解説 国語編 平成 11 年 5 月 文部省	
「読むこと」	
1・2年生	書かれている事柄の <u>順序や場面の様子</u> などに気づきながら読むことができるようにするとともに、 <u>楽しんで読書しようとする態度</u> を育てる。
3・4年生	<u>目的</u> に応じ、内容の <u>中心</u> を捕らえたり <u>段落相互の関係</u> を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、 <u>幅広く読書しようとする態度</u> を育てる。
5・6年生	目的に応じ、 <u>内容や要旨</u> を把握しながら読むことができるようにするとともに、 <u>読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度</u> を育てる。

(3) 具体的方法

・チャレンジタイムの設置

朝のSHRが終わると、全校一斉で「チャレンジタイム」と名付けられた学習の時間に取り組む。朝は読書の時間と計算ドリルの時間とを交互にする。読書の時間は、月・水・金、計算の時間は、火・木にする。朝の読書、計算は「1日の出発の時」である。朝の時間に読書をするに関しては、児童が落ち着いた心で1日が始まり、学校生活に落ち着きができ、学習への取りかかりもうまくいく。また、全校一斉に取り組むことによって、静かな雰囲気の中で「読書をする時間」または、「計算をする時間」という気持ちが高まる。

朝に行う「チャレンジタイム」と平行して、帰りのSHRの前にも「チャレンジタイム」を設ける。漢字プリントとミニ作文（今日の出来事など）を書く。月・水・金曜に漢字、火・木曜に今日の出来事を行う。今日の出来事を書くことで、書く力を育成する。書くことは、考えを整理し、考えることそのものの鍛錬にもなる。したがって、まとまった話をするためにも書くことは大切である。

	月	火	水	木	金
--	---	---	---	---	---

朝のチャレンジタイム	読書	計算	読書	計算	読書
帰りのチャレンジタイム	漢字	ミニ作文	漢字	ミニ作文	漢字

・図書室について

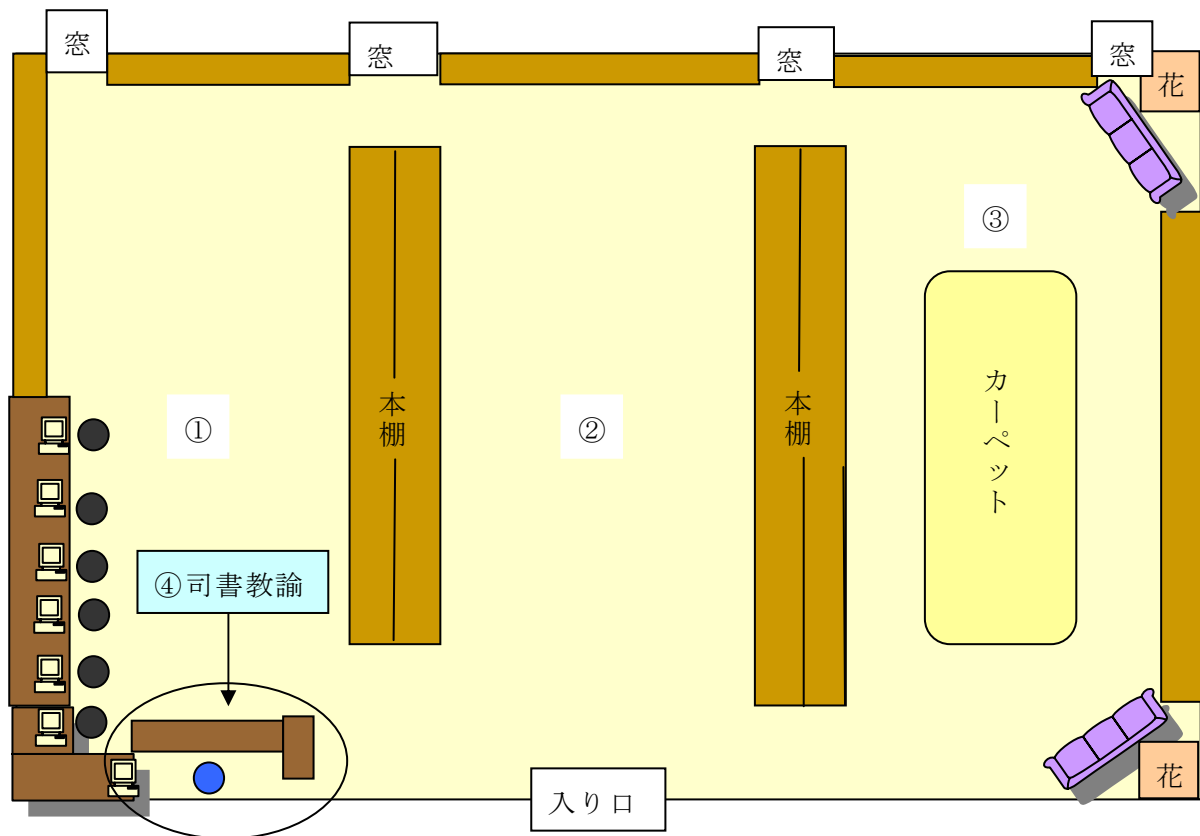
読書活動をするにあたって図書室の施設の充実を図る。従来の図書室とは異なり、活動に応じて三つの場（部屋）を設ける。壁で区切るのではなく、本棚を壁代わりにし、両端に行き来できる空間を作る。

①総合的な学習の時間や社会，理科などの時間に調べ物をする部屋

（本以外にパソコンを設置、インターネットの使用が可能）

②国語の時間に読書をする部屋（物語を中心に多数の本を設置）

③カーペットを敷き、くつろぎながらゆっくりと読書ができる部屋（絵本を多数設置）



④司書教諭の設置

子供たちの読書活動を盛んにするためには、図書・設備の充実だけでなく、気軽に相談でき、子供の視線で面白さや教養的な雰囲気を感じさせることのできる、魅力的で優秀な人材を選ぶ。誰もいない暗い雰囲気の学校図書館では子供たちは進んで本に近づこうと

はしない。それだけに、図書室に常に人がいる体制を作ることが大切であり、そのような体制ができれば、休み時間でも子供たちは今以上に図書館に足を運ぶようになると思われる。良い指導者がいれば読書活動は進んでいくはずであり、子供たちを指導できる人が図書室にすることが極めて大切である。保護者のボランティアの力なども借りて、読書に関して、子供たちの話し相手、相談相手になるような人が常にいる体制が必要である。

まとめ

学力をつけるには機会と環境が必要である。チャレンジタイムの設置や、図書室の施設充実は子どもに学習する機会を与え、施設を提供している。学力を高めるためには、環境が大切だと考える。SHRに全校一斉で学習に取り組むことで個人の気持ちの整理もできると考える。今回は機会と環境を重要視したため、上記の指導方法を提案した。

3章： 学習者の学習成果をどのように評価するか

(1) 評価の種類

◎目標に準拠した評価及び個人内評価

目標に照らしてその実現状況を見る評価（いわゆる絶対評価）を一層重視し、観点別学習状況の評価を基本として、児童生徒の学習の到達度を適切に評価していくことが重要である。目標に準拠した評価である観点別学習状況の評価を基本に据える。

評価に当たっては、知識や技能の到達度を的確に評価することはもとより大事であるが、それにとどまることなく、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの資質や能力までを含めた学習の到達度を適切に評価していくことが大切である。

評価の観点・・・「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」

の4観点による評価を基本とする。児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価することは、重要であると考えます。

目標に準拠した評価及び個人内評価が柱となる中で、集団に準拠した評価（相対評価）については、児童生徒の発達段階などに配慮した上で、目的に応じて指導に生かす。

《相対評価について》

デメリット

集団に準拠した評価（いわゆる相対評価）は、集団の中での相対的な位置付けによって児童生徒の学習の状況を評価するものであることから、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容を確実に習得し、目標を実現しているかどうかの状況や、一人一人の児童生徒のよい点や可能性、進歩の状況について直接把握することには適していない。また、児童生徒数の減少などにより、学年、学級の中での相対的な位置付けを明らかにする評価では、客観性や信頼性が確保されにくくなっていることも指摘されている。

メリット

目標に準拠した評価や個人内評価に関する情報とともに、集団の中での自分の相対的な位置付けに関する情報も、自分の適性を知る手掛かりとなるのであり、児童生徒は、これにより自分の目標を定めて学習に取り組む動機付けを得たり、将来の進路を考えていく際の情報として活用したりすることができる。したがって、各学校においては、必要に応じ、集団の中での相対的な位置付けに関する情報を提供することが考えられる。

◎ポートフォリオ評価法

特定の分野における生徒の努力や達成実績の判断を助ける、「意図的な」学習資料の収集である。

特徴

- 長期に渡って維持、評価される生徒の学習資料の収集。
- 生徒の進歩の度合いが分かる。
- 学年を終える上で特に必要な点を明確にするのに利用できる。
- 生徒の学習の累積的評価の優れた手段となる。
- カリキュラムの性質と生徒の実績が反映される。
- 選択の対象となる生徒のポートフォリオ
 - 必須課題
 - 代表的課題
 - 最適課題

生徒は次のことができる。

- 学習内容を選択する。

- 選択された各課題を考察する。
- ビデオ、読書記録、発表、試験結果などの指標を含むこともできる。

◎学習日記評価法

これは、特定の主題に関する生徒の表現、経験や考察の継続的な記録である。

特徴

- 一般的には、二種類の日記が利用されている。
 - ひとつは、最低限の指導のもとに、生徒が考えたことや感じたことを記述するもの。
 - もうひとつは、生徒に所定の課題の達成を求めるもので、この課題を正確に達成する上で必要な制約やガイドラインが定められる。
- 学習日記には、作文、図面、絵画、彫刻、ロールプレーやダンスなど、様々な思考法を含めることもできる。

(2) 分析

京都市のある小学校では、通知表の名前が「がんばり表」となっている。これも、評価の方法が相対評価から絶対評価に変わったためである。構想した学校においても、絶対評価で評価する。その理由は、客観性があり、信頼性があるからである。そして、個人の到達目標が反映され、学力の設定ができるからである。

今回注目した評価方法にポートフォリオ評価法がある。「ポートフォリオ」とは「紙挟み」や「書類かばん」といった訳語があるように、子供たちが創造した作品（日記、ビデオテープなどを含む）やさまざまな評価記録（教師の観察記録、子どもの読書目録、自己評価表など）を収集したもので、その収集された中身やそれを入れる容器（ファイル、ボックス、棚など）を意味している。ポートフォリオ評価法とは、子供たちにポートフォリオづくりをさせることによって、子どもたちの自己評価能力を養うとともに、教師も子どもたちの学習と自分の指導のあり方を評価するものである。評価の基準がさまざまなレベルと形式で提示できる。

学校の特色である、英語教育と情報教育でこのポートフォリオ評価法を用い、活動を評価する。子どもたちがいろいろな事象を「直接体験」や「体験」を通して学習することを

大切にし、さまざまな方法知を駆使して、探求していく学習を重視するからである。このような教科の学習では十分に位置づいてこなかった学習を通して、子どもたちは学習の主人公として「学問（問うことを学ぶ）の営みに触れることになる。

読書についてもポートフォリオ評価法を用いる。どんな本を読んだのか、そして感想を2～3行書く（あまり多すぎない）読書カードを作りファイルしていく。これは、生徒の学習の累積的評価の優れた手段となる。読書をすることにより、読む力をつけ、情緒力を身につける。記録された感想より、個人の情緒がどう変化したか、読み取ることができる。この一人一人の情緒力をどのように判断するかにおいて、ポートフォリオ評価法は有効であると考えられる。

ミニ作文については学習日記評価法を用いる。これは、特定の主題に関する生徒の表現、経験や考察の継続的な記録である。最低限の指導のもとに、生徒が考えたことや感じたことを記述するものである。そして、文章を書くことにより理論的思考の育成を図る。個人に所定の課題を求め（「会話文を入れてみよう」など）子どもの表現を継続的に考察し評価する。以上より学習日記評価法が有効だと考える。

まとめ

それぞれの学習にあった評価法で評価するとよいのではないかと考えた。評価（通知表）は「学習者＝子ども」も見るのでやる気を損なわない評価をすべきである。評価を見て、「次は〇〇をがんばろう」という次ぎへの意欲を持てるような評価も大事であると考えられる。



参考文献

第1章

- 教育学 生涯学習社会に向けて 宮脇陽三編著 ミネルヴァ書房 1997年

第2章

- http://www.kec.kagawa-edu.jp/h14/cho2/index_tyou2.html (2004. 10.24 アクセス)
- http://www.portland.ne.jp/~omi_nisi/syouninzuu.pdf (2004. 10.24 アクセス)
- 荻谷剛彦ほか(2002)「岩波ブックレットNo. 578『学力低下』の実態」 岩波書店

- 京都新聞 夕刊 (2004. 12. 7 火曜日) P 1
- 小学校学習指導要領解説 国語編 文部科学省 東洋出版社 1999年

第3章

- http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/12/kyouiku/toushin/001211.htm#1
(2005. 1.15 アクセス)

引用文献

第1章

- <http://ten.tokyo-shoseki.co.jp/downloadfr1/htm/eed37785.htm>
(2004. 10.24 アクセス) (1) 図
- <http://www1.u-netsurf.ne.jp/%7Ehata/inpaku/Sharon.html>
(2004. 10.24 アクセス) 073~186 0118~120 0145~153

第2章

- <http://www.view21.jp/beri/open/syo/view21/2003/01/s040108.html>
(2004. 10.24 アクセス) ベネッセ VIEW21[小学版] 2004_1 P 2 05~8
- http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/gijiroku/005/03070202.htm
(2004. 10.24 アクセス) 文部科学省 文化審議会 2004年2月3日答申
「これからの時代に求められる国語力について」Ⅱ-第1(2)国語科教育の在り方 027~28

第3章

- <http://www.jsf.or.jp/sln/ph/lpdefine.html> (2005. 1.15 アクセス)
ポートフォリオ評価法・学習日記評価法

第4章： この講義の感想と希望

この講義は、驚きの連続だった。1つは、配布される資料がルーズリーフの形になっていたことである。これはありがたかった。2つは授業形態である。今まで受けたことのない授業だった。学生がグループを形成し、各々の性格にあった役割を分担し授業を進めていった点がとても新鮮であった。また、各個人の仕事がきちんと決まっていたのでとても

スムーズに活動が進んだ。編入前の学校でもこのような授業はなかった。3つは1-s u p p o r tの使用である。このようなシステムがあり、いつでも授業を振り返ることができるという点がとても便利だった。そして、1-s u p p o r tのおかげで、いつも教育方法学が頭から離れなかった。

この中でも、やはり授業の形態が一番驚いた。そこで、最後に、一番苦勞し、印象深いポスターセッションについて感想を述べたいと思う。

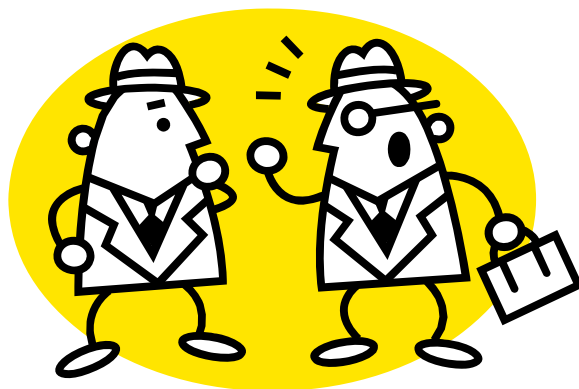
◎ポスターセッションについて

ポスターセッションを経験して、発表者と、聞く側の態度を再考することができた。発表するにあたって、どのように説明すれば分かりやすいか、どんな資料が見やすいのか、聞く側は、意見や質問の仕方に気をつけるべきだと感じた。

質疑応答の際に、皆、自分たちが構想した学校が一番だと思っているのは重々承知だが、ほかのチームの構想した学校も認めるべきだと感じた。自分の考えとは違うところがあれば、重箱の隅をつつくように聞き、責め立てる。大人気ないなと感じたことが多々あった。粗探しをするために、他人の意見を聞くのではなく、他を認めることを前提とし、話を聞く態度が必要であろう。

このような、意見を言う場では他を非難し排除するのは好ましくないと考える。「やさしくしなさい」とは言わないが、親切に意見を言うのも大切ではないのかと感じた。

ポスターセッションを通して適切な態度とは何か改めて考えさせられた。



自己評価票と公開同意書

レポートが目指しているレベル (A*) A B C)

** このレポートでアピールしたいポイント **

構想した学校を基に第2・3章を展開しました。構想した学校の特色が、どのような効果をお子たちに与えるか全体を通して書いてあります。

** レポートを次の視点で自己評価してください。(選択する) **

- ①参考文献・引用文献、参照 URL を示すことが [できた] ・ できなかった]
- ②「感想」「だと思ふ」調)ではなく「論理」「である」調)で主張 [できた ・ できなかった]
- ③読み手が読みやすいように配慮することが [できた] ・ できなかった]

レポート公開同意書

後輩への公開について(○) web 上の公開について(○)

- ①. 実名入りで公開してもかまいません
2. 公開してもかまいませんが、匿名を希望します
3. 公開しては困ります

2005年 1月 20日 氏名(得能香織)